

日本海溝・千島海溝沿いにおける後発地震への注意を促す情報について

巨大地震の発生から概ね2時間後に開催する、内閣府・気象庁の合同記者会見により発信

■名称 **北海道・三陸沖後発地震注意情報**

■情報発信の条件*1

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とそれに影響を与える範囲(右上図)で、**Mw7.0*2以上の地震が発生した場合**

■対象エリア*1

最大クラスの地震により**津波高3m以上、震度6弱以上が想定される地域**
(北海道、青森県、**岩手県**、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の対象市町村)

■受け手に取っていただきたい防災対応*1

地震**発生から1週間**は日頃からの**地震の備えを再確認**するとともに、揺れを感じたら、**ただちに避難できる体制の準備**

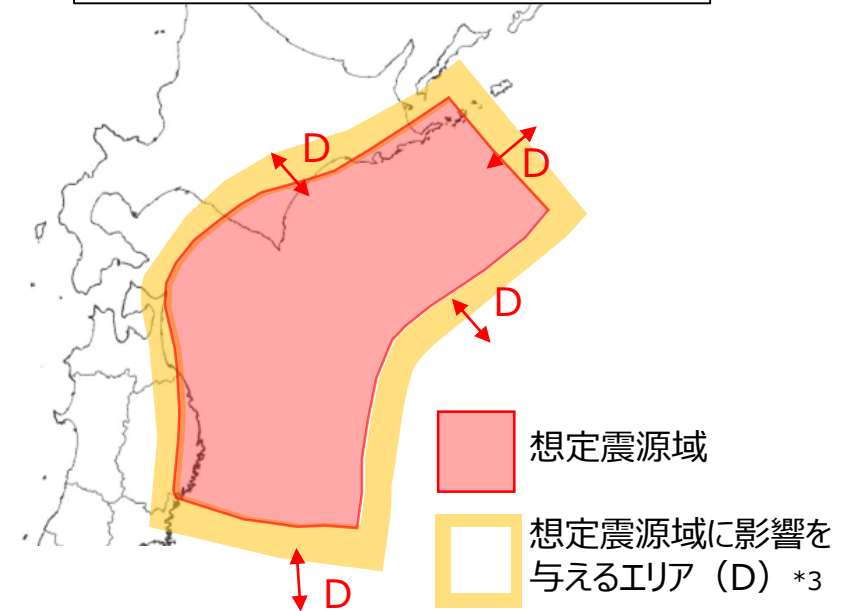
- 【住民】
- 避難経路・避難場所の確認
 - すぐに逃げられる服装で就寝
 - 非常持出品の常時携帯 等
- 【企業】
- 避難経路・避難誘導手順等の確認
 - 発災時の職員の役割分担の確認
 - 情報の正確な伝達・よびかけ 等

■情報発信の開始時期 **令和4年12月16日～**

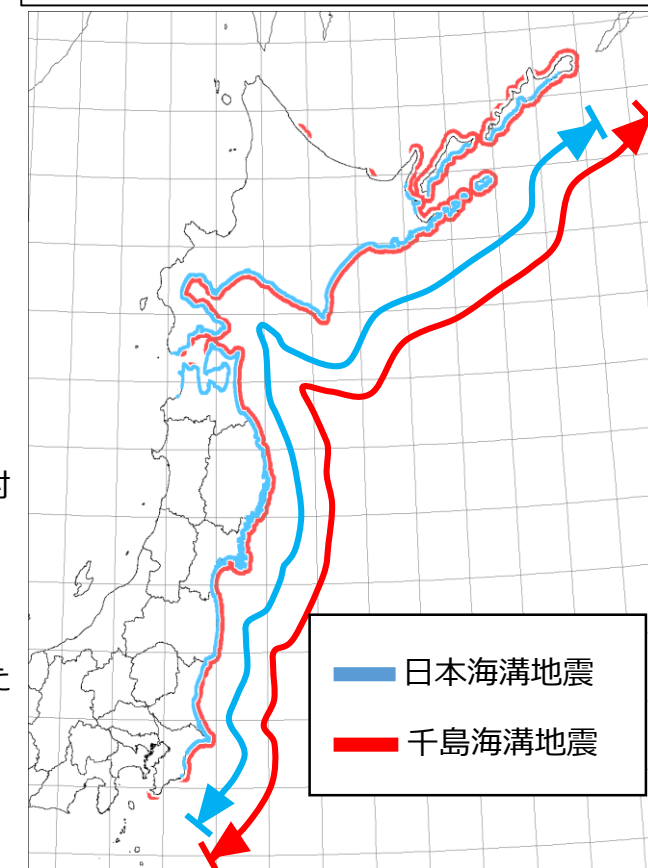
■発信の頻度(想定) *4 概ね2年に1回程度

【内閣府(防災担当)・気象庁資料より抜粋】

巨大地震の想定震源域



津波高3m以上の範囲



- *1: 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震 対策検討WG報告書に定めのある事項
- *2: 一定以上の精度で求めたMw
- *3: 影響を与えるエリアの範囲(D)は、発生した地震のMwによって変化する
- *4: 過去約100年の間に当該地域で発生したMw7.0以上の地震数から想定



防災行動の一例

【地震時に迅速な避難が必要な場合】
**揺れを感じたら
直ぐに避難できる体制の準備**

【地震によるリスクの高い場所がある場合】
**想定されるリスクからの
身の安全の確保**

**後発地震に注意し、
誰もが実施すべき備え**

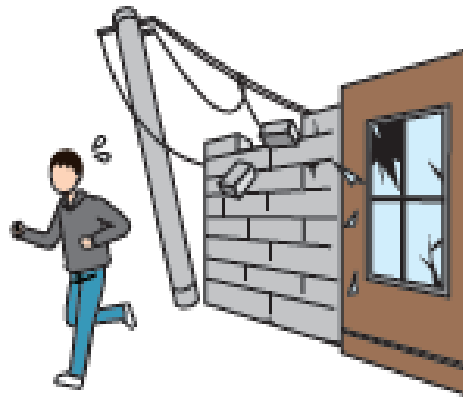
すぐに避難できる体制での就寝

- ✓ すぐに避難できる服装（外着・防寒着の着用）
- ✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝
- ✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用



揺れによる倒壊への備え

- ✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等にはできるだけ近づかない



緊急情報の取得体制の確保

- ✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく
- ✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置



非常持出品の常時携帯

- ✓ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く
- ✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯
- ✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く



土砂災害等への注意

- ✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所にはできるだけ近づかない
- ✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える
- ✓ 地震発生後の津波からの避難が困難な地域にはできるだけ行かない



日頃からの備えの再確認

- ✓ 水や食料等の備蓄の再確認
- ✓ 避難場所・避難経路等の再確認
- ✓ 家族との連絡手段の再確認
- ✓ 家具の固定の再確認
- ✓ 自治会単位での訓練等での再確認 等

